

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立南大内小学校（京都府）

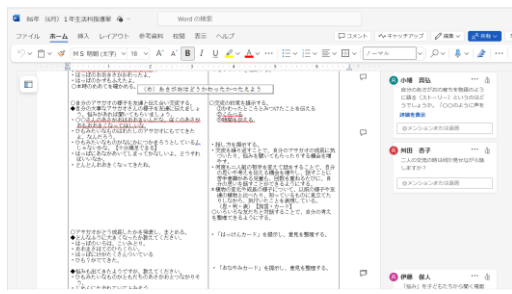
【取組内容】④働き方改革を意識した校務DX

- 年度当初から校務DXを活用して働き方改革につなげられる部分がないか教職員全員で検討し取り組んできた。
- 全教職員が行事や授業のために作成した資料を誰もがいつでも見られたり、活用できたりしている。それが働き方改革やカリマネにつながっている
- クラウドをうまく活用することで効率のいい働き方ができている。

クラウドを活用した公務

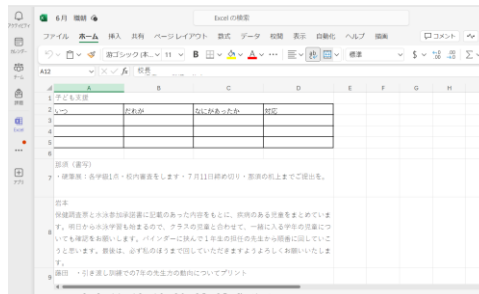
【指導案検討】

本年度から指導案検討をクラウド上でやっている。WordファイルをTeams上で共有することでコメント機能を活用して、アドバイスや気になることなどを入力した。全員が共同編集で同時に入力した後に不明な部分等は個別に聞きに行くなどしている。そのため、効率のいい指導案検討ができている。



【Teamsでの職朝】

TeamsでExcelファイルを共有し職朝を行っている。前もって伝達事項を入力できることや、不在の教職員に代わって代読することができる。そのため、非常勤や時短の教職員も伝達事項を後々確認することができる。月ごとにExcelのシートを作成しているため、遡って確認することも可能である。



【データの整理と保存】

行事や授業に使用した作成物は全教職員が使用できるように整理して保存している。前年度のものを参考にする事で効率よく仕事ができている。

【保護者連絡ツール】

本校は保護者連絡ツールの登録が100%である。そのため、ほとんどの連絡やアンケート等を保護者連絡ツールだけで完結することができている。



<工夫点や変容>

- ・ 1つの指導案のデータを共同編集することで、短時間で指導案検討を行うことができている。また、他の教員の考えや意見をすぐに反映できる。
- ・ 保護者連絡ツールの活用にあたり、登録することに難色を示した家庭もあったが、粘り強く必要性を説くことで登録に理解を得た。